

【山直北・城東校区】  
学校適正化に向けた校区懇談会  
(第3回)



## 第2回懇談会でいただいた主なご意見について

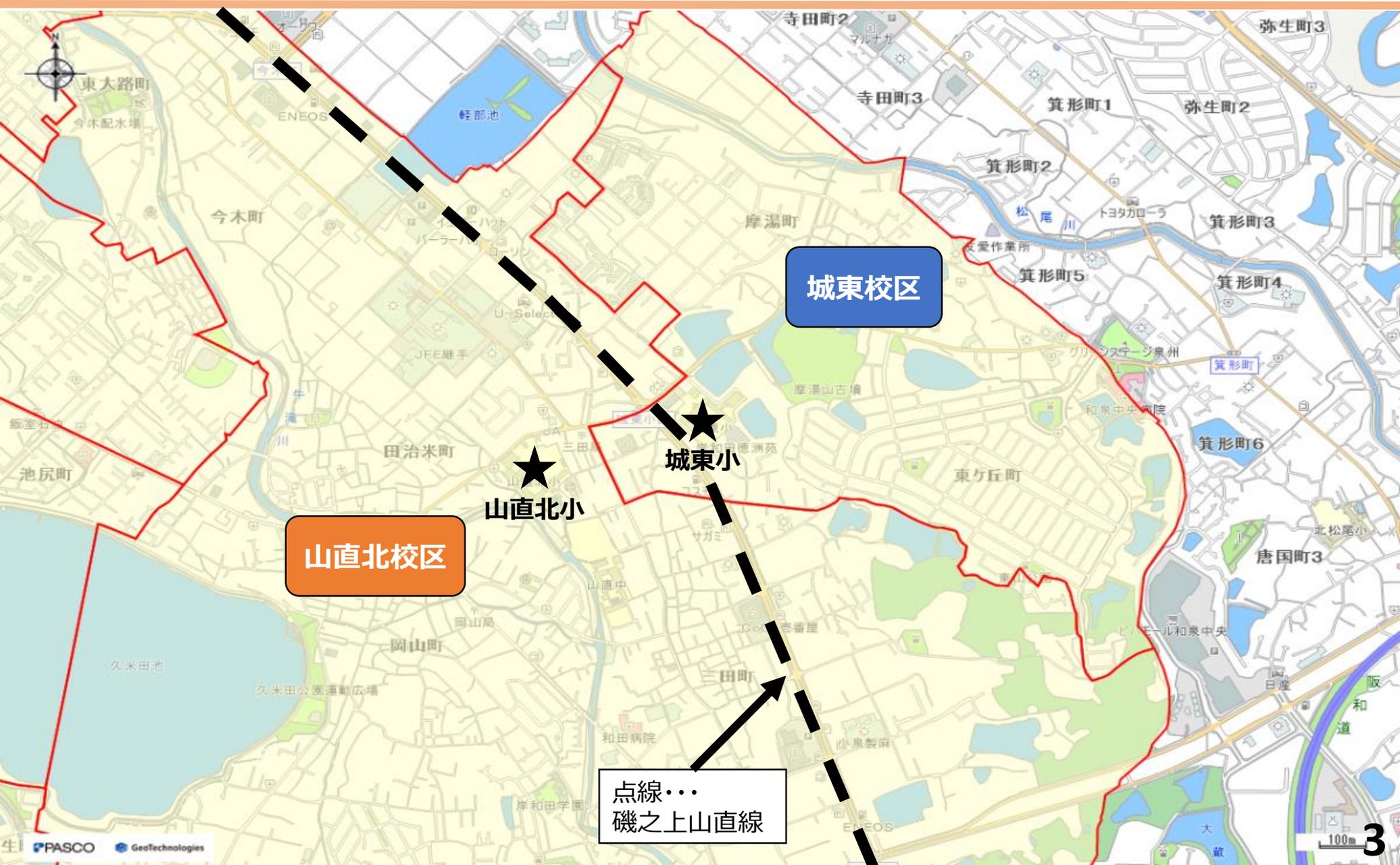
- ◆現在「本来校:山直北、調整校:城東」となっている調整区域の通学区域を城東小学校に見直せばよいのでは。
- ◆磯之上山直線を横断して通学する危険性も鑑み、磯之上山直線より城東小学校側の通学区域を城東小学校に見直せばよいのでは。
- ◆城東小学校の統合ありきで話を進めるのか、城東小学校を残す努力をする方向で考えるのかで話は大きく違ってくる。今の人口動向をみると、残す方向で考えて欲しい。
- ◆学校の統合再編に取り組む前に、人口減少を食い止めて人口を増やす努力をする必要があるのでは。
- ◆適正化の取組について、いつからこの方向性になったのか等、再度詳しく段階を追って説明してほしい。 →冒頭で別途説明します。

山直北・城東小学校区における、現時点での通学区域や、ご意見を踏まえた変更シミュレーションについて説明します。

# これまでの取組経過について

平成29年5月	総合教育会議にて「学校の適正規模について」が議題となる
平成30年9月	学校規模・配置適正化に関するアンケート調査を実施
平成30年10月	「岸和田市立小中学校等規模及び配置適正化審議会」設置、諮問
令和元年10月	審議会より答申を受ける
令和2年3月	「岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針」策定
令和2年7月	市内8箇所で、基本方針についての市民説明会を開催
令和2年11月	「岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画(第1期)(案)」策定
令和3年4月	実施計画(案)周知のためのホームページ動画配信開始
令和3年11~12月	市内10地域で、実施計画(案)についての地域説明会を計20回開催
令和4年6月	【山直北・城東校区】学校適正化に向けた校区懇談会(第1回)を開催

# 現状の通学区域について(広域図)



# 現状の通学区域について(調整区域①…田治米町)



# 現状の通学区域について(調整区域②…三田町・田治米町)



# 調整区域からの通学実績について(直近5年間)

入学年度	調整区域児童	山直北小を選択	城東小を選択	城東小選択割合
H30	6人	3人	3人	50%
R1	9人	3人	6人	67%
R2	3人	1人	2人	67%
R3	8人	2人	6人	75%
R4	4人	0人	4人	100%
合計(平均)	30人	9人	21人	<b>72%</b>



調整校を選択する割合を「 $3/4 =$ **75%**」と仮定している現推計と、  
大きな乖離はないことがわかる。

# 城東小シミュレーション① ～調整区域をすべて城東校区に編入～

年度	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
1年生	57	39	39	36	37	39	39	39	36	34	34
2年生	31	58	39	39	34	36	39	39	39	34	34
3年生	30	31	58	39	39	36	37	39	39	39	36
4年生	39	31	31	58	39	39	36	37	39	39	39
5年生	43	39	32	31	58	39	39	37	37	39	39
6年生	46	43	39	32	31	57	39	39	37	37	39
児童数見込	<b>245</b>	<b>241</b>	<b>239</b>	<b>235</b>	<b>239</b>	<b>246</b>	<b>230</b>	<b>231</b>	<b>228</b>	<b>224</b>	<b>223</b>
学級数見込	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>

年度	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31
1年生	32	32	31	30	31	30	32	30	26	26	26
2年生	34	31	31	30	30	30	30	31	30	26	26
3年生	36	36	31	31	30	30	30	30	31	30	26
4年生	36	36	36	32	32	31	31	31	31	32	31
5年生	39	37	37	37	33	33	32	32	32	32	33
6年生	39	39	37	37	37	33	33	32	32	32	32
児童数見込	<b>216</b>	<b>210</b>	<b>202</b>	<b>196</b>	<b>192</b>	<b>186</b>	<b>187</b>	<b>185</b>	<b>181</b>	<b>177</b>	<b>173</b>
学級数見込	<b>8</b>	<b>7</b>	<b>6</b>								

(コーホート要因法による 学級数は通常学級)

前ページ資料のとおり、現時点でも多い割合で城東小学校を選択されており、  
第2回懇談会で示した推計値と比べても、ほぼ差が生じない。

## 城東小シミュレーション② ～磯之上山直線を境目に通学区域を設定～

Q.磯之上山直線を横断して小学校へ通学する児童はどれくらいいる？

年度	山直北側→城東へ通学	城東側→山直北小へ通学
R2	約 <b>1%</b> (2人/214人)	約 <b>7%</b> (50人/692人)
R3	<b>0%</b> (0人/212人)	約 <b>6%</b> (43人/691人)
R4	<b>0%</b> (0人/216人)	約 <b>6%</b> (41人/673人)
平均 (合計)	約 <b>0.3%</b> (2人/642人)	約 <b>6.5%</b> (134人/2,056人)

仮に磯之上山直線を境目に通学区域を設定し直すとして、児童数推計を算出する際には、上記の実績値を基に、山直北小学校の推計値から6%を差し引き、差し引いた値を城東小学校の推計値に加え入れて算出することが妥当と考える。

# 城東小シミュレーション② ～磯之上山直線を境目に通学区域を設定～

年度	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
1年生	60	44	44	40	41	44	44	44	40	39	39
2年生	35	61	44	44	39	40	44	44	44	39	39
3年生	34	35	61	44	44	40	41	44	44	44	40
4年生	44	35	35	61	44	44	40	41	44	44	44
5年生	48	44	36	35	61	44	44	41	41	44	44
6年生	49	48	44	36	35	60	44	44	41	41	44
児童数見込	270	268	264	261	264	272	256	257	254	250	248
学級数見込	10	10	10	10	11	12	12	12	12	12	12

年度	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31
1年生	36	36	35	34	35	33	35	33	30	30	29
2年生	39	35	35	34	34	34	33	34	33	30	30
3年生	40	40	35	35	34	34	34	33	34	33	30
4年生	40	40	40	36	36	35	35	35	34	36	35
5年生	44	41	41	41	37	37	36	36	36	36	37
6年生	44	44	41	41	41	37	37	36	36	36	36
児童数見込	242	235	227	220	217	210	210	208	204	200	196
学級数見込	11	10	9	8	7	6	6	6	6	6	6

(コーホート要因法による 学級数は通常学級)

一時的に適正な学校規模(12学級)に至る推計。

ただし、令和24年度以降は再度、適正化対象の小規模校となる見込み。

# 【参考】山直北小学校推計 ～磯之上山直線を境目に通学区域を設定～

年度	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
1年生	98	97	96	97	96	95	96	96	93	89	91
2年生	94	99	98	96	98	97	95	97	97	93	90
3年生	93	94	98	98	96	97	97	95	97	97	93
4年生	100	93	94	98	98	96	97	97	95	97	97
5年生	107	99	93	93	98	97	95	96	96	94	96
6年生	89	108	100	93	94	98	98	96	97	97	95
<b>児童数見込</b>	<b>582</b>	<b>591</b>	<b>579</b>	<b>575</b>	<b>579</b>	<b>580</b>	<b>577</b>	<b>577</b>	<b>574</b>	<b>568</b>	<b>563</b>
<b>学級数見込</b>	<b>18</b>										
年度	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31
1年生	89	86	87	86	86	76	78	82	78	82	75
2年生	92	90	87	88	87	87	77	79	83	79	83
3年生	89	92	90	87	88	87	87	77	79	83	79
4年生	93	89	92	90	87	88	87	87	78	80	84
5年生	96	93	89	91	89	87	87	87	87	79	80
6年生	97	97	93	89	92	91	88	88	88	88	79
<b>児童数見込</b>	<b>557</b>	<b>547</b>	<b>538</b>	<b>531</b>	<b>529</b>	<b>516</b>	<b>504</b>	<b>499</b>	<b>492</b>	<b>490</b>	<b>479</b>
<b>学級数見込</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>17</b>

(コーホート要因法による 学級数は通常学級)

# 通学区域の見直しにかかる利点と課題等について

<b>利点(メリット)</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>○城東小学校で一定の集団規模を一時的に確保できる。</li><li>○磯之上山直線を渡らずに通学できる。</li></ul>
<b>課題(デメリット)</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>×城東小学校が再び小規模化する見込みである。</li><li>×三田町及び田治米町のコミュニティへの影響が懸念される。</li></ul>
<b>その他留意事項等</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>▲通学区域を見直す上では、各関係町会のみならず、その地域に住む保護者の意向が重要。</li><li>▲通学区域見直しにかかる保護者の意向如何によっては、城東小学校で増加する児童数が見込みを下回る（適正規模に至らない）可能性がある。</li></ul>